

留学体験レポート

先輩たちの体験談集

受験生のみなさんはそれぞれに大学に入ってからこんなことしてみたいという願望や、また何ができるのかという疑問を抱いているかだと思います。本学科では留学という一つの選択肢が用意されています。留学といっても行き先によって事情が異なります。そこで、留学について少しでも具体的なイメージをもってもらえるように、みなさんの先輩となる人たちから留学体験談を集めてみました。



協定校等の具体的な留学先

派遣留学



留学は他国の言語や文化を学ぶことができるだけでなく、自分や自国の文化としっかり向き合える貴重な機会を提供してくれます。そのため国際コミュニケーション学科では2回生の後期から留学をすることを推奨しています。期間は長期留学(9~12か月)・中期留学(3~6か月)・短期語学研修(3~8週間)があり、英語圏だけでなく、ドイツ、フランス、中国、韓国、モンゴルなど履修した外国語科目に合わせて留学先を選ぶことができます。また協定校以外への認定留学制度もありますので、ぜひ自分に適した留学先を見つけて異文化を体験してみてください。

**GERMANY**

**自分を変える原動力**

私はドイツのアウクスブルク大学に半年間、それに加えて語学学校に1か月留学しました。不安要素の一つだった言語運用能力のレベルに関しては、「ずっと日本で勉強していたならここまで伸びなかっただろうな」と思えるほどに向上しました。確かにドイツでは様々な苦労を経験して、何もかもが嫌になった時期もありましたが、そのような日々の中で素敵なことを見つけるたびに、「まだ頑張れる。このままでは帰れない」と思い直しました。アウクスブルク大学には、日本語を学習している学生が大勢いて、その人たちと互いに母国語を教えあうタンデムという制度が利用できました。タンデムパートナーたちは今でも良い関係です。また、留学生の間ではドイツ語だけでなく英語でも会話をしますので、同時に二つの言語を学習できる貴重な機会を得ることもできました。留学がマイナスに働くことは決してありません。たとえ辛いことをたくさん経験したとしても、その経験があなたを変える原動力になります。

鈴木 里英子 さん ● 3回生

**FRANCE**

**真剣に自分と向き合えるチャンス**

私が留学したフランスのリールはとても過ごしやすい穏やかな街です。比較的治安も良く、パリはもちろんイギリスやベルギー、ドイツなどの近隣諸国にも気軽にいくことができ、ヨーロッパを楽しむ最高の場所です。フランスでは多くの移民が受け入れられており、しばしば「人種のるつぼ」と例えられますが、よく見てみると、「るつぼ」ほど混ざりきっていない「人種のサラダボウル」ではないのかと感じることもあります。リール政治学院には留学生をサポートする団体があり、困ったときには親身に相談に乗ってくれます。ただしフランスでは日本のように快適なサービスをいつも受けられるとは限りません。海外で不自由さを経験することで、いかに自分が恵まれた環境にいたかを痛感できるのも留学の魅力です。また、伸び悩み語学力に焦りを感じることもありました。ありのままの自分と向き合おうと考えてきたことのできたことをしました。思い返してみると無駄なことなどない半年間でした。

金原 雅記 さん ● 3回生

**SOUTH KOREA**

**毎日が発見の韓国留学**

韓国についてどのようなイメージを持っていますか?私は留学に行く前まで飛行機で2時間ほど行けるほど近くにある国ということもあり日本とよく似ているのではないかと思っていました。しかし韓国へ来てその考えは間違いだと気づきました。私の通っている光云大学(韓国ソウル市)では語学を学ぶほかに週一回韓国の文化を学ぶ授業があります。韓国料理を作ったり、今は韓国の伝統的なスポーツであるテコンドーを習ったりしています。私の留学生活はこのような韓国の様々な文化に触れたり、韓国の人々と交流する中で日本とは違う考えや習慣を発見したり、「隣の国でもこんなに違うのか!」と驚き刺激を受ける毎日です。留学しに来たからこそ新しい経験や発見ができました。帰国したら交換留学での体験を活かして日本ではあまり知られていない韓国の面白さを発信していきたいと考えています。

今村 奈津美 さん ● 3回生

**MONGOLIA**

**新しい経験にトライ!**

モンゴル留学をして学んだことは、やはり何事も「経験」することが大事なこと。1年間の留学生活は、僕にとって「はじめて」がいっぱいでした。郊外のチンギス・ハーン像まで46kmもの距離を乗馬でトレッキングをしたり、モンゴルの子どもたちに日本語を教えたり、モンゴル国立大学の授業では様々な国から来た留学生たちと日々互いに切磋琢磨したりして、どれ一つをとっても、日本ではできないことだらけこそ、とても思い出深い経験となりました。また、モンゴルには、どこまでも果てなく広がる大草原、そして夜空一面にまたたく星など、日本にはないものが溢れています。その中でも、特に印象に残っている体験は、46kmの馬旅行の挑戦です。ヘトヘトになりながらも、何とかたどり着いたときには、大きな達成感が得られました。現在、モンゴルに興味がある人にも、まだない人にも、是非この感動を味わってほしいと思います。「モンゴル語」だけでなく、さらに一歩踏み込んで、「遊牧文化」を学びに、一度モンゴルに留学してみませんか?

浅田 誠 さん ● 3回生



シドニー工科大学 (オーストラリア) (予定)

オークランド大学 (ニュージーランド)



- ランシング・コミュニティカレッジ** 派  
**ミシガン州立大学連合** (15校)  
**ミシガン州アルマカレッジ** (アメリカ合衆国)
- セントラルミシガン大学
  - イースタンミシガン大学
  - フェリス州立大学
  - グランバレー州立大学
  - レイクスベリオル州立大学
  - ミシガン州立大学
  - ミシガン工科大学
  - ノーザンミシガン大学
  - オークランド大学
  - サギノーバレー州立大学
  - ミシガン大学アナーバー校
  - ミシガン大学ディアボーン校
  - ミシガン大学プリント校
  - ウェイン州立大学
  - ウェスタンミシガン大学
- カリフォルニア州立大学**  
**モンレーベイ校** (アメリカ合衆国)
- ワシントン州**  
**スカジットバレーカレッジ** 派  
**オリンピックカレッジ** 派 (アメリカ合衆国)
- ビクトリア大学** 派 (カナダ)
- アラバマ州**  
**オーバーン大学**  
**モンゴメリー校** (アメリカ合衆国)
- ミズーリ州**  
**コロンビアカレッジ** (アメリカ合衆国)

**USA**

**私を成長させる環境**

私が留学したアメリカのカリフォルニア州は、様々な人たちが、それぞれの言語や文化が互いに混じり合う中で共生している社会でした。そのため、日常的にアメリカだけでなく他国の文化や考え方に触れることができ、自然とそれらを尊重し、受け入れる力が身に付きました。州立大学モンレーベイ校には日本語学部があり、日本に興味がある学生がたくさんいます。また、大学の日本語クラスのアシスタントをしたり、小学生に日本語と日本文化を教えたりする機会にも恵まれ、アメリカ人がどのようにして日本語を学んでいるのかを見ることができ、第二言語習得を研究している私にとってはとても貴重な体験でした。たくさんの人や異なる文化に出会い、日本ではできないことを体験し、語学だけではなく人間的にも成長することができる点が、海外留学する魅力だと思います。この交換留学で得た幅広い視野を、今後社会人となる上で活かしていこうと思います。

芝田 翔子 さん ● 3回生

**USA**

**アメリカで得た新しい視点**

私が留学期間中に感じたことは、アメリカは世界中から人が集まる国であり、それを受け入れるあたりに現地の人がいる国である、ということです。私は秋学期に語学プログラムを履修していました。8カ国から来た留学生とともに半年間学び、英語を学ぶことはもちろん、日々の生活の中で他国の文化や価値観に触れていくことができました。春学期は社会学や心理学などの専門科目を履修しました。自分が学んだことのない科目を英語で学ぶというのは不安でしたが、周りの学生や教授のサポートのおかげで、積極的に学ぶことができました。一年間の留学を通して、留学前に抱いていた世界のイメージが変わり、国内外を問わず様々なことに興味を持つようになりました。コロンビア大学で学び、新しい視点を得たことで物事に対してより柔軟に捉えることができるようになったと思います。

須川 貴子 さん ● 3回生

**USA**

**Stephanie in Wonderland**

私の出身地カリフォルニアはとても温暖な気候で、彦根とは全く異なります。秋に開催される大学祭「湖風祭」は、私がこれまで見てきたどのイベントよりも華やかでした。スタッフとして働く日本人学生は皆、成功させようと懸命に取り組み、アメリカでは感じたことのないようなエネルギーに満ち溢れていました。校外学習も驚きの連続でした。沢山のお寺を訪問させていただき、普段なかなか見られない国宝を鑑賞させていただくことができました。教授のアシスタントとして働くこともでき、教授が学生の教育のためにどれだけ力を注がれているのかを垣間見ることができました。国際化推進室の皆さんは親切に話しやすい方ばかりで、私が大学で心地よく楽しく過ごせるように気遣ってくださいました。県大での一年は学習に没れるチャンスにあふれ、たくさんの友達に恵まれて、素晴らしい日本文化を再認識でき、決して忘れることができない素晴らしい経験となりました。いつか、必ず日本に戻ってきたいと思っています。

ステファニー・リッツ さん ● 交換留学生

**USA**

**他の文化との共通点を知ること**

私はアメリカのミシガン州ランシング市のランシングコミュニティカレッジに留学しました。はじめは、他文化との「違い」が目が行きがちで、それを理解することこそが異文化理解につながると思っていました。しかしそうではなく、共通性を認めることが異文化理解につながりやすいのではないかと感じるようになりました。特に寮の仲間たちとは、「言語や育ってきた文化が違うだけ」と考え、相手の性格や特徴を読みとろうとするようになってからは気楽にコミュニケーションがとれるようになった気がします。これは、他国の人にだけでなく、身近な日本人同士のコミュニケーションにも言えることだと思います。もちろん日本の外に出なくてもこのようなことを学べる機会はたくさんありますが、留学によって一度環境を変えて様々なことを違った視点からみるからこそ学べたことだと私は考えています。

小川 留理子 さん ● 3回生